

第6回 北海道地方会 活動報告

『ホスピタリティ医療を目指し～医師事務作業補助者の次なる可能性～』



●日時：H30年6月23日（土） 14時00分～18時00分

●会場：手稲溪仁会病院 溪仁会ホール（札幌市手稲区前田1条12丁目）

●参加人数：139名

第6回となる地方会は、北海道支部 支部長交代後初めての開催となりました。みなさんにご挨拶を兼ねてお知らせする事が出来ました。

開会挨拶：支部長 渋谷由美子、開会施設代表挨拶：顧問 成田吉明

1. 一般演題発表 4演題

座長：

厚別耳鼻咽喉科病院 医事課課長 齊藤裕子

JCHO 北海道病院 医療情報室 メディカルクラーク 原間井里衣

1 手稲溪仁会病院 医療秘書課 佐々木梨恵さん

「耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来における電子カルテ陪席代行入力を試みと今後の課題」

2 小笠原記念札幌病院 医師事務作業補助者 樋渡沙耶香さん

「医師事務作業補助者も医療チームの一員となるために」

3 くがはら内科クリニック 医療秘書 佐藤幸恵さん

「当院での日常業務について」

4 釧路孝仁会記念病院 ドクターズクラーク 中屋佐知子さん

「コミュニティスケールを活かした新たな取り組み」

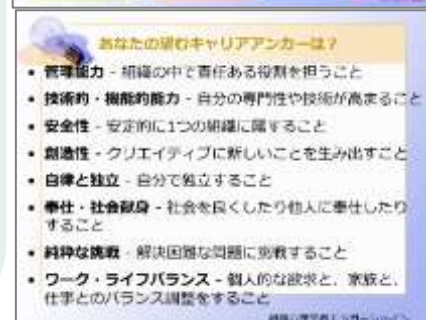


多施設の発表を聞くことで自院での問題解決策が見出されたり、持ち帰って真似をしてみようという気持ちになったりと、刺激的なセッションとなりました。質疑応答も活発で、大変ためになる御発表ばかりでした。

2. 「ステップアップレクチャー ～キャリアパスについて～」



NPO 法人日本医師事務作業補助研究会 副理事長 南木由美



医師の専門的な事務業務を担う職種として誕生した医師事務作業補助者も、導入から定着まで可視化される教育制度あるいは、モチベーションアップに繋がるキャリアラダーが必要とされる時期となってきました。研究会では、2016年に『臨床支援士』という呼び名で統一。研究会の中でキャリアパスWGを発足し、検討を重ねてきた取り組みについて報告がなされました。

会場では、「あなたの望むキャリアアンカーとは？」という問いかけに自己を振り返る良い機会となりました。また、能力評価は最終的には能力開発、ひいては自発性を引き出す活用法があるとの講演内容で、後半のグループワークの中でも話題の中心にあがっておりました。

3. 「グループディスカッション

～ 医師事務作業補助者の次なる可能性とは？～

座長：北海道大野記念病院 メディカルクラーク課課長 渋谷由美子

今回は「外来」「病棟」グループに分かれ、1グループ内に3年未満の新人さんと3年以上のベテランさんが組み合わせのグループとなりました。初心に返った気持ちや、なるほどという気持ちが入り混じり、活発な意見交換がなされました。また「管理者」グループでは採用、キャリアパス等、話題に尽きない様子でした。

他院の方との交流で問題点を分かち合ううちに、プラスワンの仕事の可能性や、自院での問題解決のヒントをもらったなど、会場は盛り上がりました。

各グループより話し合いの結果を可視化するため、付箋に記入いただき、最後に他のグループの方との情報共有がなされました。時間を余すことなく大いに盛り上がりました。



4. 「医学レクチャー 病理診断について」

座長：札幌白石記念病院 院長 高橋 明

講師に宮崎県立日南病院診療部・臨床検査科部長 木佐貫 篤先生をお招きして、医師事務作業補助者が知っておきたい病理診断学の知識をお話いただきました。お話がとても興味深く、参加者は食い入るように聞き入っていました。

画像診断と病理診断との違いは、確定診断が出来るか否であることや、診断までの流れなどが改めて興味深く、フラジャイルやアンナチュラルといった最近のドラマの話を取り上げるなど、病理にこれから携わる実務者へもわかり易く、とても勉強になりました。確定診断を下す病理医からの期待される医師事務像として、何よりコミュニケーションが大切であり、検査結果や病理診断の正しい理解を深める事が大切であるとのお言葉を頂きました。

